

島三小
育友会報

が
ん
ば

・発行・
教養部会報班



(小川 尚氏・撮影)

「おとうさん」

五年五組 松 本 金 一

まっ黒いぶしよまひげ。

まっ黒い顔。

いつもおきにくから日やけするんだな。

それにおとうさんは、

とてもひどい。

まゆげをたてにして、

おこる。

でもとてもやさしいよ。

さんすうの問題だっておしえてくれるし、

たべものだって、

「そけ ひわんあひけん たぐる」と

いってくれる。

おとうさんは、

やさしいなあ。



◎ 恋愛結婚でしょうかね。もちろん！

妻は馬年生まれですが、私は兎年、でも私は軍隊では騎重兵出身。どんな暴れ馬でも乗りこなせる自信があったので結婚したのです。

◎ 夫婦けんかは月に何回くらい？ およびその原因を素直に白状してください。月に二・三回くらい。

い。それも子どもがいない時、口げんかのモトレッツなのをやります。原因は、妻が口にする（……）よからもん、……よからで」という言葉が気に入らず、私の方から始めますが、そのうち二人とも疲れてしまつて、いつの間にか終戦という訳です。

◎ 夫婦お互いどう呼ばれますか。私は、子供のいない時は「マスイ」子供がいる時は「お母さん」、妻

インタビュー 青友会長 本田巻男さんの素顔

きりりとしまつた顔である。前額部が禿げあがつて、若き日の篠田政雄（俳優）を思わせる。そのような感じの顔である。梁癡性を浮き出させた顔である。神経質な表情の中に図太い神経が、ちらりと顔をのぞかせる不思議な男の魅力がひめた顔である。文字どおり几帳面な人である。そこでまずインタビューは、奥さんとのなれそめから……。

ていちろ・やまもと

◎ 朝起きて、出勤までまでの時間のスケジュールは？

はいつもきまつて「お父さん」です。六時起床。この時間に狂いはなし。私は、ヨ刀にもとびいた逆立ち、三反倒立をやり、その間、妻はテレビ体操です。それが済んで朝食まで益

◎ あなたの生活信条を聞かせて下さい。「わが道を行く」です。

◎ 青友会のあり方について、ズバリ一言……、親も、もっと勉強していかなばなりません。みんな

力が協力して、もっと親しまれる青友会にせねばなりません。青友会が経済後援団体であった時代は、もう過ぎたのです。

全く緩急自在、すこく頭の回転の早い人である。そして終始温顔をくずさない人である。話しているうちに、真面目で些が固苦しい、冷い感じの第一印象がフツと消えて、春風の中に酒を酌むような、さわやかさに包まれてしまった。あたたかい人柄、これが本田さんの真の魅力なんでしょう。終戦時、陸軍中尉。現在合資会社永頼屋書店総務部長、三小青友会長の外、県民生委員、市児童厚生施設運営協議会委員。三男あり。五十歳。

各部だより

- * 教養部 *
 - 教養部長 山本篤五郎（川尻町）
 - 左記四班で分担して事業を行ないます。
 - へ総務班 六月十日に研修旅行。
 - 講演会の計画をしています。
- へ学級班 学会の出席率向上、開き方の具体的方法を検討し実現をはかります。
- へ会報班 会員皆さんの声をどしどしあげてもらいよりよい会報の編集をします。
- へ文庫班 一般貸し出し、夏休み迄

回文庫、新刊書の購入、献本運動などを行ない、本年は「親子共読運動」に力をいれます。

* 施設部 *
施設部長 谷口房三（桃山町）
学校めぐりを本年は他の部にもよびかけて実施し、ふだん見学したことがない諸施設もくわしく見学し、今更ながら本校の諸施設の多さ、大きさに感心した。

これらの施設が毎日毎時子どもが利用できるような管理、維持するのはほんとうにたいへんなことだと思ひ、育友会員として、できるだけのことはしなくてはとの感を深くしたのであった。

* 生活部 *
生活部長 池田 真（崩山町）
生活部では、町内での少年団指導の研究をするため、次のような年間計画を立てています。

- 五月、少年団のあり方について
- 六月、実践の月
- 七月、夏休みの生活指導
- 八月、実践の月
- 九月、夏休みの反省
- 十月、家庭学習のあり方の研究と実践
- 十一月、
- 十二月、冬休みの生活指導と十・十一月の反省
- 一月、冬休みの反省
- 二月、一年間の反省

以上



タッチ・イクオール・ラブ

学校長 松本 巖

これは私が製造したとばであるので、無理のあるとばかもしれない。けれども、私は私なりに、教育的に、人生的に意義のあるとばだと信じている。タッチとは触れること、さわること。イクオールとは算数でいう $||$ で等しいということ、ラブとは愛情、愛することである。だから、タッチ・イクオール・ラブとは、親しく具体的に触れあうことから愛情がわいてくるという意味を公式的に表現してみたのである。

七、八年も前のことだったが、大阪方面から学校にネクタイを売りに来たことがあった。その男は、職員の机の上に一本一本あてていねいに、柄がまよく見渡されるようになべたのである。やがて休み時間にな

って先生がやって来て、ネクタイの柄に見入っていたが誰一人買う者がいない。側にいた私は何だか気の毒で、せめて一本でも売れないかなあと思った。次の始業のベルが鳴って先生方は教室に出かけていく。男は次の休み時間まで待つ気らしい。そこで私が「並べているのをまぜくっておいたらどうですか」といったら、男は「もうですか」と笑いながらまぜくりはじめた。次の休み時間も先生方がネクタイの前にやって来たが、まぜてあるので、柄の全貌が見えるものは一本もない。よさそうなの柄の一部が、ちらりちらり見えるだけである。妙なもので、そんな時は手に取ってみたくなるものである。一人さわり、二人触れしているうちに十三本も売ってしまった。ネクタイの冷いつるりとした感触を手に感じている間に愛情がわいてほしくなつたのであろう。

その後も、学校には時折、物を売ってくるものがあるが、握るか、触れるかする時は必ずといっていいほど不思議によく売れるのである。極めて簡単な短時間の風景であった。けれど、私は私の考えた仮説が誤りでなかったことと人生の真理をしみじみと感じたのであった。「タッチ・イクオール・ラブ。タッチHラブ。……私私の心に言い聞かせる。夫婦、親子、友人、隣人、師弟、顧問係等すべてに、この公式があて

はまるような気がする。愛情は抽象的、観念的、概念的、心の底で思うだけでは相手に通じない。具体的にそして身近に触れあわなければ愛情はこまやかに湧かない。鎧玉をやることも、握手、キッス、杯のやりとり、袖振りあうのもタッチである。頭をなでてやる、肩をたたいてやるのもタッチである。頭をなで、肩や背をたたいて激励される時の、あの甘酔っぽいドロップスのような背の感触は何ともいえない快感と感激をおぼえる。直接体に触れなくとも、やさしい言葉をかけるのもタッチの一つである。タッチの方法や領域は非常に多い。いや、叱かることさえ時によってはタッチである。後妻に来た奥さんが、先妻の子どもを腫れものにさわるようにして、悪いことをしようが、どうしようが叱かりもしないでは、いわゆるタッチしないので、その間柄は白々しいものになつてしまう。生んだ子どものように愛情こめて叱かるのがタッチであり、互いに愛情がわいてくるものである。政治も、恋愛もタッチから、万引もタッチからである。握れば欲しくなれる。買わないものに手をふれてはいけない。見れば欲しくなり、さわれば一層欲しくなる。タッチHラブを、教育的に人生的に善用したいものである。そして世の中が暖かくなるだろうし、人々は能力を發揮するだろう。特に男性、父親は、タッ

チ・イクオール・ラブを毎日三回服用すべき時代であると、私は考える。

昭和四十年度 青友会 役員氏名

会 長	本 田 善 男	新 山
副 会 長	谷 本 光	坂 上
監 査 委 員	江 崎 達 子	蛭 子 町
	川 鍋 正 武	皇 舟 津 幸
	榊 島 中 組	
常 任 委 員	藤 田 実 中 組	
	本 田 芳 保	広 龍 場 下
	池 田 真 崩 山	
	谷 口 房 三	桃 山
	早 崎 安 市	有 馬 伊 達
	本 田 定 則	元 舟 津
	本 田 幸 男	蛭 子 町
	松 村 翠	八 幡 町
	松 本 重 松	瀧 邊 上
	水 江 幸 徳	広 龍 場 上
	山 本 篤 五 郎	川 尻
	鐘 ヶ 江 マ サ ヅ	下 川 尻 北
	木 下 睦 子	津 町
	古 川 ヤ ス 子	中 組
	羊 田 茂 満	学 校
	森 山 安 則	
	松 本 真 一	
	川 田 義 純	
	吉 田 正	
	吉 田 博	
上 野 重 寿		
草 野 重 寿		

会 計 記 録

が ん ば

六月の

肥後路を

行く

PTA研修旅行

三小PTA教養部の行事として、六月十日、百八名は二台のバスで、鎌軍、城東の両校に別れて、特殊学級を参観した。

健軍小

大掠の繁る校門から図書館に案内される。校長、教頭、担任の説明を聞き熊本県下の学校のもようを知る。健軍小は特殊学級二学級と中学校の特殊学級一も併設されている。

説明の中で育成会のおかあさん奥田さんから、自分の子どもとの経験と力強い親の気持ちを通じて、私たちの考えを啓発されたことは特に印象に残る。子どもの学習のよう、中学部のブロック作業の実態を見て、明るいこのびのびしたこの子どもたちへ心から励ましと将来の幸福を願っ

て拍手をおくる。なお終日奥田さんは、私たちのために県育成会副会長の出田さんを紹介してくださったりされ、育成会を通して知恵をおくれの子どもへ献身の情熱をさかけていられる。健軍小の特殊教育が早くから開設され、育成会が校区あげて活発な運動を進めていくことについてわたしたちも、反省をし島原の知恵おくれの子どもたちへ、明るい一灯をささげる決意をさらにかためた。

城東小

熊本城の東に、城東小学校がある。本校は付属小学校とともに熊本での特殊学級の草分けで、宮々として歩み続けている。

この学級は、低・高学年の二学級に、教師三名で、知能指数(55〜75)十八名の教育可能な「ちえおくれの子ども」たちを知能に応じて指導されていた。ねらいを「たくましい精進児」を育てるため、自立できるような忍耐力の養成につとめているとのことであった。

どの子を見ても、あかぬく、くったくない笑顔に、普通学級にない、人間性のふれあいを感じた。中学生の木工、ししゅう、活字くみ、ブロック作業は大変参考になった。要するに、これまでに成長してきたことは、育成会七百名を中心に献身的な努力があったためと思う。めぐまれない、この子らの幸福のため、炎をもし続けられたら……、感激あらたに帰島したのである。

立山 幸子(南風泊)

校長先生から話を聞きましたが、話の間に絶えることのない先生の笑顔から、かえって改めてこの教育のむずかしさを教えられた気がしました。指導に当っては、算数・国語といっても、全くついてこれぬ状態ですから個々の知能の程度によって指導すると共に、言語や保健、体育も集団生活を基にして指導されているそうです。これだけの設備ですから、経費もかさむと思いましたが、育成会が組織されており、PTAからも助成されていると伺いました。育成会の組織については、聞きまわりましたが、会員約七百名、

会費月百円で、その他「愛の鉛筆」の販売等で資金獲得を図っているというのでした。親の理解はもろろん、全く他人事ではなく、自分達のこととして協力していきたいと考えさせられました。

馬場 良 龜(栄町)

目的地城東小学校について、四万都市の小学校とは思えぬ環境の良さに驚きました。各教室に親子テレビの設備があり、その代金百五十円を毎月一生徒百円ずつの納入で一年六カ月かけて支払ったことを知り、全く感心しました。また、調理室の完備も参考になったし、給食の面でも大分差があることに気がつくれました。ここで研修旅行から帰ったの意見として、お願いしたいのは、三小の調理室に食器消毒器を設置していただきたいということです。城東小学校の父兄ほどの熱意があれば実現できると思うのです。

前田 清(板土町)

目的の健軍小学校の建物は古さが

目についたが、図書室で話を聞くうちに、特殊教育への心づかいと努力がくみとれた。中学校も一しょになって学級があり、工場ができてくるのには感心した。工場内の主な機械は「ミキサー」「プレス」程度であるが専門的技術を実習によって習得させるまでには、指導者の御苦労は大変なものであらうと、心をうたれた。

元島ツマ子(元輪津町)

不幸な星の下に生まれた子供たちでも運動場でのびのびした動作、ミシンを踏んでいる生き生きとしたあの目、作業をしている子供たちの明るい顔、このしあわせに輝く目や明るい顔にはどうしてなったのだろうか。私は、私なりに考えました。それは特殊教育に対する善意ある社会の人達の協力に支えられた、澄んだ泉にあるのだと、そこから流れるくめどもつきぬ先生方の温情ある努力、もちろん理解ある親心、この子供さん達の親もしあわせだと思いましたが。



平野チトセ(津町)

歴史の新しい建物、至れりつくせりの設備に、財政豊かな熊本県政がうかがわれました。また、校長先生のお話を承って、県市当局の誠意、理解が今更のようにはうらやましく思いました。中学の部の作業を見て、宿命づけられたこの子供達の生命線は、手先の仕事だけであってその技術習得は学校でできるが、いつまでも学校に居られる訳でもなし、社会人として一人立ちした時、一般の人々の愛と情が必要だ、そのためには一人でも多くの人々に精進地に対する理解を深めていただきたい気持ちで一ぱいになりました。でも、疲れを明日にのこすような日程は、どうかと思われまます。午前中研修、午後慰労と区別して日程を組まれてはどうでしょうか。

小笹 栄(埴守)

大変有意義な研修旅行をさせていただき、ありがとうございます。特殊教育に対する諸先生、育友会の方々の御心遣いと御努力には、ただ頭の下がる思いがいたしました。研修旅行より帰って、今更のように三小の諸先生方の御苦労が身にしみ、あらためて御礼を申し上げたいと思

ます。

広瀬フミ(八幡町)

(城東小学校)子どもの作品、運動場のようすを拝見して行くうち、知能指数は低くとも、何かそこに喜びをみいだした時の子どもの作品が、いかに画面に、生々としてあらわれていました。また、シシユウの美しさ、かれんさに驚かされました。長崎県は熊本県に劣ってはいませんが、知事を会長と仰ぎ、篤志家の婦人のかたもおられ、生徒数に配置した先生の数もゆくりしており、その点、学ばべきだと考えました。

小見川スミ(津町)

私達が見学した城東小学校は、校庭より熊本城が見える、近代的な中に落ちつきのある学校でした。

- 一、校内だけのテレビ放送、
- 二、教室内の歯ブラシ設備、
- 三、くつ入れの清潔さ、
- 四、給食場の設備も広く、献立等もガラスの中に入れてありました。
- 五、特殊な児童が、机刀バー、エプロン、と大人も及ばぬでばえに本当に感心させられました。
- 六、印刷工場、木工場、増築中で、ミシンも五六台並び、男生徒が一心にぬって居ました。

七、何もかも皆目新しいものばかりで驚きました。講室もま新しく三小にも欲しいなと思つて帰りました。

山本葛三郎(川尻町)

一、健軍校の教育のようすや施設等も、なかなか立派だと思いましたが、三小におけるそれも決して劣るところか、むしろ、より以上ではないかと思ひました。二、小中学校併設は、専門的な立場からは、むずかしい問題があると思ひますが、望ましいのではないかと思ひました。三、父兄の方々に育友会の方々の献身的な活動には敬服しました。四、特に一番印象に残つたことは、中学校の教頭先生が、「ここにいる子供達を可愛抱だ……と思わないで下さい。むしろ、ここにこそ彼らは本当にしあわせなんだ、と思うようになって下さい」と言われたことが、子どもたちの明るく、のびのびしたようすを見て、よくその意味がわかりました。

原 昭子

二のたびの旅行で、熊本には、精神薄弱者育成会という会があることを知りました。熊本市でも県でも、すでにこの会があり、活発に活動していることを聞きました。鳥原にはまだこの会がないようですが、一日

P.T.A研修旅行に対するアンケートの集計

*今年の研修旅行について

参加者 108名

学校別
1号車 53
2号車 55 (回答 39)

も早く会を発足させて、その時は、私も何かのお役に立ちたいと思っております。特殊教育にはお金がかかる、良い施設がある、ということでしたが、施設はともかく、せめて担任の先生を一学級一名にしてあげられたらと、思います。また小学校、中学校の特殊学級を別々におくのではなく、普一しよにして、中学校まで一貫した教育ができるようにしてあげられないものかと思えます。

*その他の感想
・熊本城の見学をしたかった。デパートの休業で残念であった。
・郡内の子ども会の見学。午後小浜あたりで休憩し、レフーツンをした。
・はじめての研修旅行だったが、参加してほんとうによかった。
・昼食は同一場所(一号車・二号車)とりたかった。
・或東小の説明者の声が低く、うしろまで聞えなかった。
・研修旅行の人選に考慮してほしい。
・研修旅行は固すぎず、やわらすぎぬよう、ほどほどに。
・研修旅行で特殊学級に関心を持った。人ごとではない気持ちである。

場所	1号車	2号車	計		
			1号車	2号車	
1. 場所	イ. よかった	28	38	66	
	ロ. よくなかった	0	0	0	
	ハ. わからない	0	0	0	
	ニ. 無 答	11	2	13	
2. 視察目標	イ. よかった	37	40	77	
	ロ. よくなかった	0	0	0	
	ハ. わからない	0	0	0	
	ニ. 無 答	2	0	2	
3. その他の見学	イ. よかった	30	27	57	
	ロ. よくなかった	2	7	9	
	ハ. わからない	5	2	7	
	ニ. 無 答	2	4	6	
4. その他のレフレッシュ	イ. よかった	18	18	36	
	ロ. よくなかった	4	2	6	
	ハ. わからない	5	11	16	
	ニ. 無 答	12	9	21	
5. 経費 250円	イ. よかった	37	39	76	
	ロ. よくなかった	2	0	2	
	ハ. わからない	0	1	1	
	ニ. 無 答	0	0	0	
		39	53	40	51

「がんば」が誕生するまで

皆さんから寄せられた会報名は、なんと二四八通に達しました。審査にあたった十二名の会報係は、フーツとため息をもらしながらそれでも慎重に、それでも楽しく審査に当たったのです。一番多く寄せられた名称は①「白山」②「しらぬひ」③「まゆやまの順でした。すでに他の会報等に使われている名称は、とり除いて、兩三度の無記名投票によって選ばれたのが次の三つ、息づまるふんい気のうちに、最後の投票が行なわれ、その結果

「がんば」 五票
 「はまゆづ」 四票
 「あけぼの」 三票

と一票の差で「がんば」が決定したのです。「がんば」の名付親は、田口勝さん。二四八通のうち、ただの一通よせられたものでした。ここに、会報名決定までの経過を簡単に御報告し、応募して下さいました皆様にご心からお礼を申し上げます。

「がんば」

三月に入って、有明海に産卵にくるふぐの島原における通称。その味はすばらしく、島原名物料理の代表とされる。「がんば」は棺桶(は)は(……)と同じ意味の助詞で、産卵期のふぐの善素の激しいことから棺桶を用意しても噓わすにはおれない」というあたりが語源だとされている。(T.Y.)

先生方の もぎりの名

谷 口 三 矢

「ご存知でしょうか——」

「子どもたちは、わたしたちにあだ名をつけているようです。「きょうは先生のあだ名調べをします」「この紙に書いてください」と言うと教室はわーとわき、みんなに「ににに」にやしてやっています。そして書いてもらったあだ名を紹介いたします。

まず、校長先生から。しらがじじい。ひげおやじ、白木みのる。これはあの口マンズグレイに対する敬意でしょうか。それから、名まえからくるので、いわ、がん。ちよっと進んだっけ方、かみそりじじいとは、切れ者という意味でしょうか。ハンサムは愛称で、のんびりくんとは、すこしずれているようです。



お次は、
教頭村田先生。これは断然、チビッコ大将が圧倒的でした。

た。おじちびというのが一人。数の多いのは山下先生。五、六

年の「もぎり」みんなが音楽科を任せわになっていて、なじめが深いからでしょう。まず、みまちゃんにミゼント。魚雷。かみなりは授業熱心のあまりついけくはつするからでしょう。歌をほめて、すずめ、音楽家。最後に、そはかす美人。美人がついているのは、あなたともう一人

ただです。次は体育の平先生。接統の多い先生はあだ名が多いことを覚悟してください。光る頭。つるびか。ひかる太陽。かがみ。光り輝くこの君は、まるでイエス・キリスト様みたい。まだあります。電球。キューピー。ドンピカ親分。キューピーが一番いいですね。キューピーは幸福の使。

次はわたたくし。たこばな。だこ。そのものずばりでしょう。それからへそ先生。これは今の子達に合った最初の日に



「へそ」に力を
入れてじっくり落ちついて行動しなさい。といったからです。で、へそへそB。Bはめがねのこと。めがねは、ちゃん。B先生。ジュニア。森山先生は、ガロン。ダンブカ。B20はくげ。き。大男。ブタ。でかばんのおっさん。重疊感がありますね。

佐藤先生は、ひよこり先生にの

「ほさる、電信柱。もぎりと気のない愛称を付けてくれないかな。でもご本人は、ちよとも怒らずに「ににに」。修養ができています。荒木先生。ダンスの親分。ダンスのボス。パレー。おどりの名人。ダンスの王さま。

木下先生は木下藤吉郎、ウインク先生。おっかさん。牟田先生。ぶた。これは名まえからきたものでしょう。くるぎつねとは？、頭は白いのですがねえ。

川田先生は剣術先生。スタミナ。ざとう。やくざの親分。寺田先生はお寺の和尚さん。べろちゃん。おしゅれ。加藤先生、加藤こんべえ。代教に行った時、「先生の名は名無しのごんべえ」とおっしゃったからだそうです。それからぎざちよ。佐々木先生はさし木先生。吉田正先生は、大将、作曲家。高橋先生、絵の王さま。橋本先生、人気もの先生。



草野洋子先生、アメリカ人。はな高先生。白雪姫。おしゅれ先生。ミスー



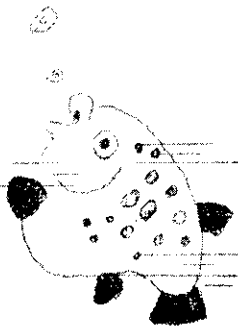
号。美人。

なんてすばらしいあだ名でしょう。でもご本人は、わたし同様、鼻のことは言われたくないらしいです。早稲田先生はやえちゃん。

いろいろな事情で、全部の先生のま綱羅することができませんでしたが、あしからず。今、ことを美しくする運動で、校内では、あだ名を言う子どもはほとんど見かけません。このあだ名をいつ、どういうふうに使うのか、わたしにはわかりませんが、おとうさんおかあさん方はご存知でしょうか。「あだ名を言ったらいけない」という前に、楽しいあだ名を親愛をこめて使い、ユーモラスな中におのずと礼儀正しい子どもであってほしいというのが、わたしたちの願いではないでしょうか。



馬場先生が
ジャイアン
トばば。





学校

だよりの

児童会活動

教諭 松本真一

子どもたちは、いつも「明るい学校」「楽しい学校」でありたいと望んでいます。わたしたちは、こうして子どもたちの希望を十分とり入れて学校運営をはかることが大切であると思えます。そこで本年度から毎週木曜日に学校の諸問題について児童会をもち、子どもたちの自発的、自治的活動を考えてきました。ところで、児童会の話し合いの場で、すみやかに立派な結論を出すことは教師が善善してひっぱる。ていけば、たやすくできるでしょう。しかし、それでは子どもたちが自分たちでものごとを考え判断し、みんなできよりよい解決を見出していくという能力を身につけることはできません。子どもたちが自分たちで生み出した結論がたとえますぐともそれでよいと思いません。

やってみてうまくいかなければまたみんなまで話し合っただらうなと思えます。

「急がば、まわれ。」これは児童会活動の指導にとっても重要なことであるし、今後は、児童会が子どもたちのもものなり、学校生活の充実、向上に役立つよう努力していきたいと思えます。

新しい国語学習

国語の授業参観をして、「おや、このごろの国語のべんきようは、予見とか見とおしとかだじな文とかいってむずかしいことを子どもが学習しているなあ」と頭をかしげられることと思えます。

国語教科書の文章を読んでも、その中に書いてあることが、ほんとうにわかることは、なかなかむずかしいものであります。ただ口を動かして読んでいるだけでは、力がつかないのであります。

そこには「読む心」というものが必要になります。が、本校で現在おこなっております読みとりの方法は、文章を書いた人が、なにをいおうとしているかを子ども達が自分の力で追求していきこうとする学習法です。

勉強のしかたについては、学習のしおは、書いてありますので、こ

家庭で子どもさんが国語のべんきようをされる時には、しおり等を手がかかりにして相談相手になってください。このような国語の学習法で鳥原第三小学校の児童の学力がぐんぐん伸びることを期待するとともに、父兄の方のご理解とご協力をお願いいたします。

編集室のひとりごと

○ 草野 洋子

はじめの仕事を無我夢中でした。皆様に喜んで読んでいただけような親しみのある会報を願っております。どうぞよろしく。

○ 谷口 三矢

会報期になって「これは大変」と思いました。でも作り上げる苦勞をふむうち、だんだん嬉しくなってきました。

○ 小鉢 京

「がんば」の名付親の田口さん、シテマツトリとニタリ、がんばのようにな、もう少しふくれたらと、腕をさすっていた。

○ 加藤 一美

私は鉄工所の上これです。ようやく会報名が「がんば」と決ま、喜んであります。

○ 田口 勝

「がんば」：青友会報名がきまった。もみにもんだ末、ゆっときまった「がんば」。味も天下一品、この会報も天下一品にしたい。

○ 本田

永年の懸案であった会報名も四年目を迎えて「がんば」と命名され、十号より初名のりしました。今まで皆様に目を通していただかないようで寂しがっていた会報でしたので、内容も新しく盛ったのです。どうか皆様のものとして目を通して下さいます。

○ 田中 十郎

思ったより安産でした。楽しく仕事のできたのも、すばらしい会報職員を得たおかげです。みんなで楽しく話し合い、みんなで手分けして、楽しく仕事をつづけて作ったのが、この会報「がんば」です。御期待下さい。そして協力して下さい。

病棟発行責任者

三小青友会被褥部会報班

山本 第一郎

印刷者 東村 進